

# 自伝的記憶における想起の視点と想起時期の関連性の検討

○井関龍太<sup>1</sup>・川崎恵里子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>筑波大学心理学系・<sup>2</sup>川村学園女子大学文学部

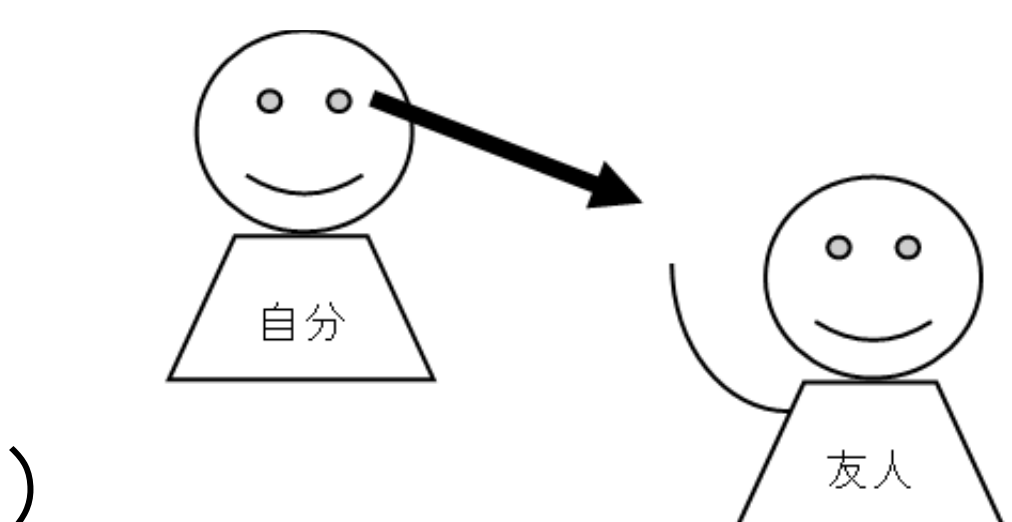
\*(現在, 日本学術振興会特別研究員PD・京都大学教育学研究科)

## 問 題

### ○想起の視点:

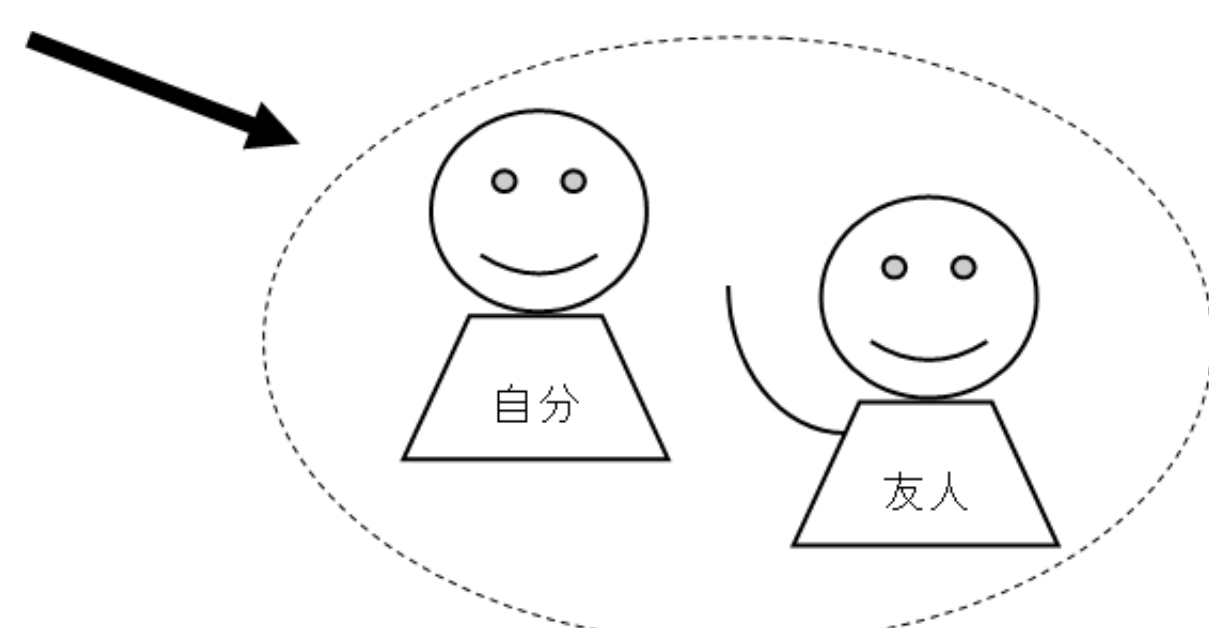
#### a) 一人称の視点

実際に自分の目で見ているかのように情景を思い描く(自分の目から見えるものしか描写されない)



#### b) 三人称の視点

第三者の目から見ているかのように情景を思い描く(自分自身の像を思い描く, 現実にはありえないアングルから場面を見る)



### ○自伝的記憶と想起の視点

・Libby & Eibach(2002): 現在の自己と一致するor一致しない過去の行動を想起を求めた

→三人称の視点からの想起: 一致行動<不一致行動

・Libby et al.(2005): 一人称or三人称の視点を使って自伝的記憶を想起するよう求めた

→自己変化の評定: 一人称の想起<三人称の想起

○本研究: よりニュートラルな条件設定を用いて, 自伝的記憶と想起の視点の関係を検討する

・自己に一致しない行動の想起や自己の変化の評定を明示的に求めることは, 報告のバイアスを生じやすいかもしれない

・イメージ性の異なる手がかり語からの自伝的想起を求める(高イメージ語は古い記憶を喚起しやすい: Rubin & Schulkind, 1997)

## 方 法

○実験参加者: 女子大学の学生20名。

○要因計画: 高イメージ語条件と低イメージ語条件の2水準の1要因被験者内計画。

○材料: “NTTデータベース 日本語の語彙特性”(天野・近藤, 2003; 佐久間他, 2005)より, 文字単語親密度が同程度の二字熟語の中からイメージ性の高い語と低い語を5つずつ選んだ。

・高イメージ語: 鉛筆, 黒板, 写真, 水泳, 電話

(平均文字単語心像性=6.24)

・低イメージ語: 感想, 季節, 時間, 熱中, 無礼

(平均文字単語心像性=4.69)

各手がかり語をひとつずつ別々のカードに印刷した。

### 「写真」

#### a) 出来事の起きた時期



#### b) 思い出した視点: 一人称・三人称

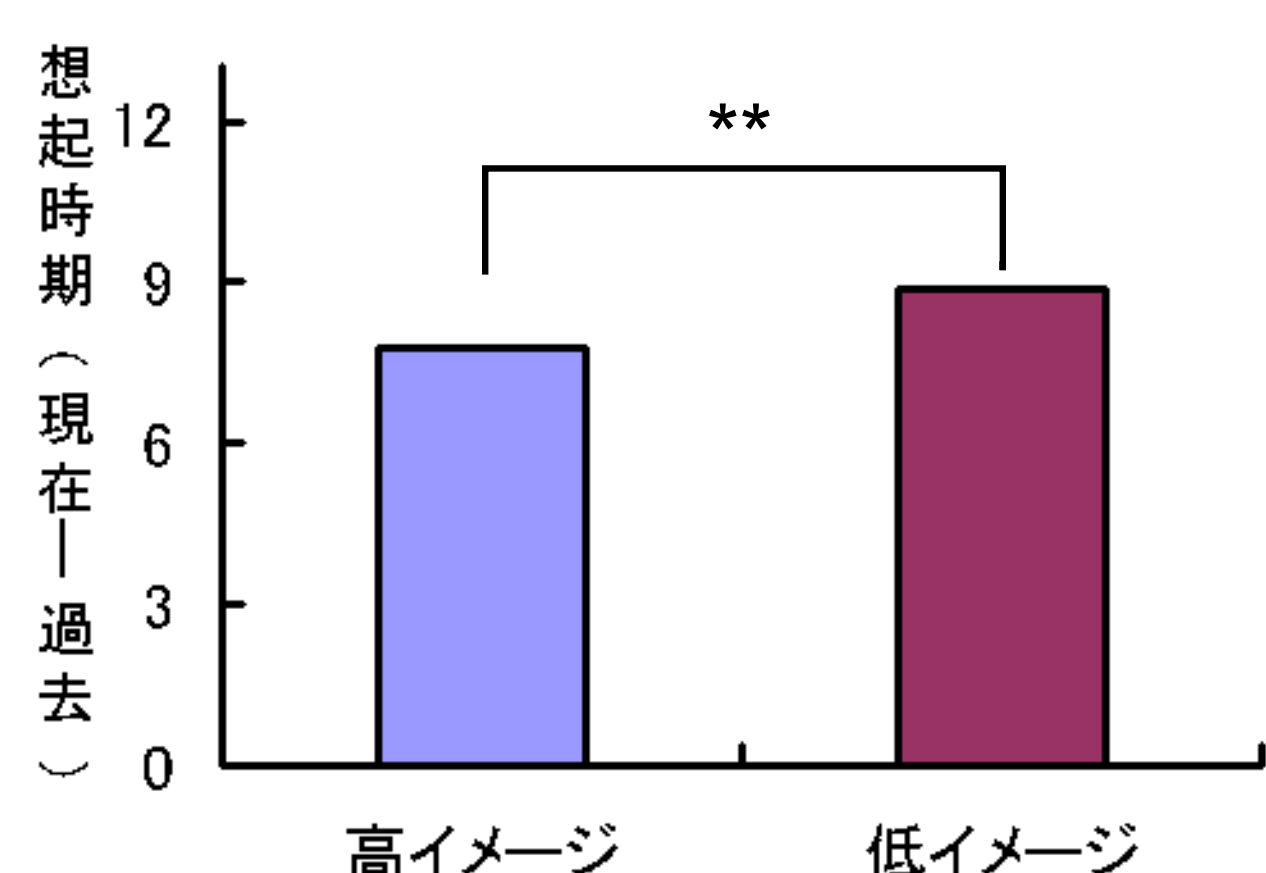
#### c) 出来事の鮮明さ:

まったくはっきりしない 1・2・3・4・5 とてもはっきりしている

○手続き: 参加者に一枚ずつカードを渡し, 手がかり語から思い出す自身の過去の経験を簡単に記述するよう求めた。その後, 想起した出来事の生起時期, 想起の視点, 想起の鮮明性を尋ねた。すべての手がかり語について回答を終えた後で, 記入済みのカードを見てもらいながら, それぞれの出来事の楽しさを5段階で評定してもらった(1=まったくたのしくなかった~5=とても楽しかった)。

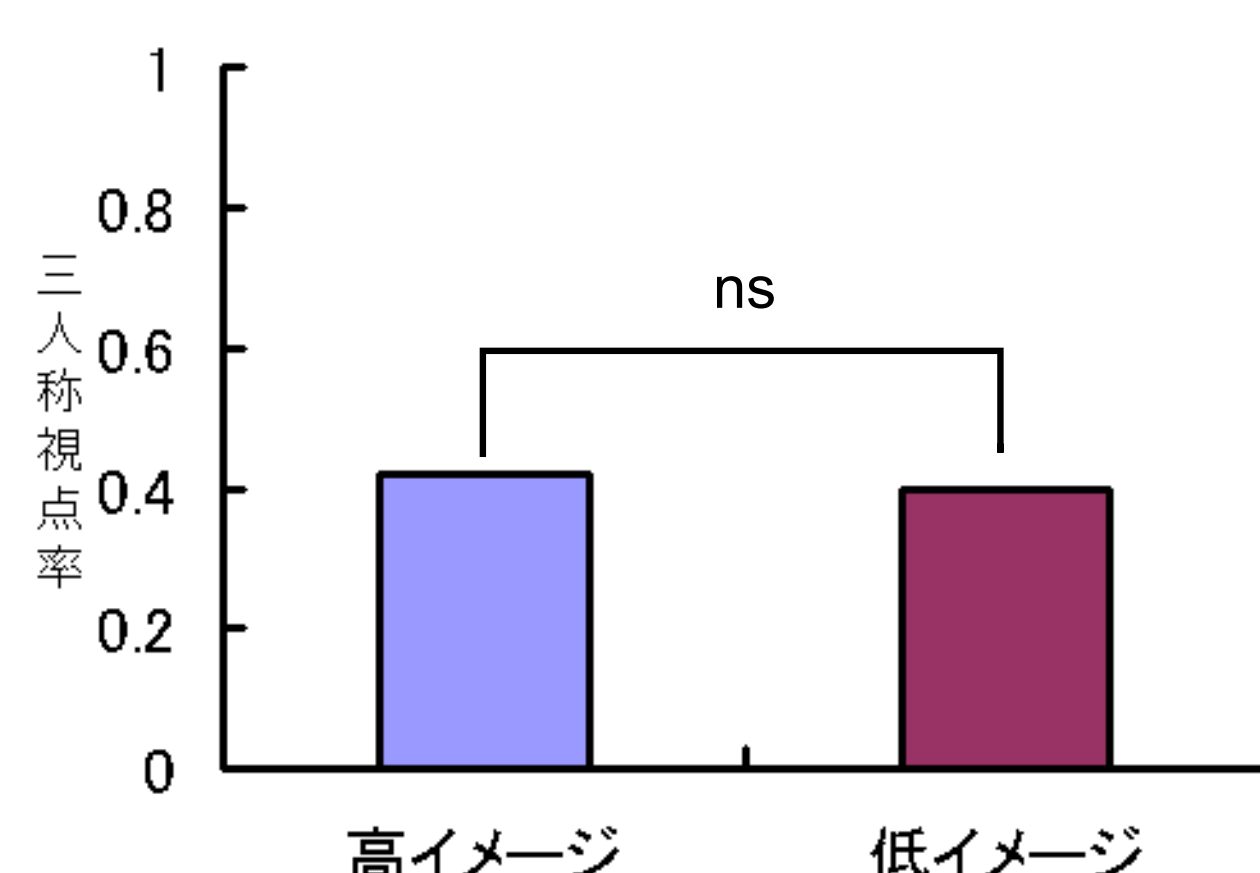
## 結 果 と 考 察

### ○出来事の生起時期



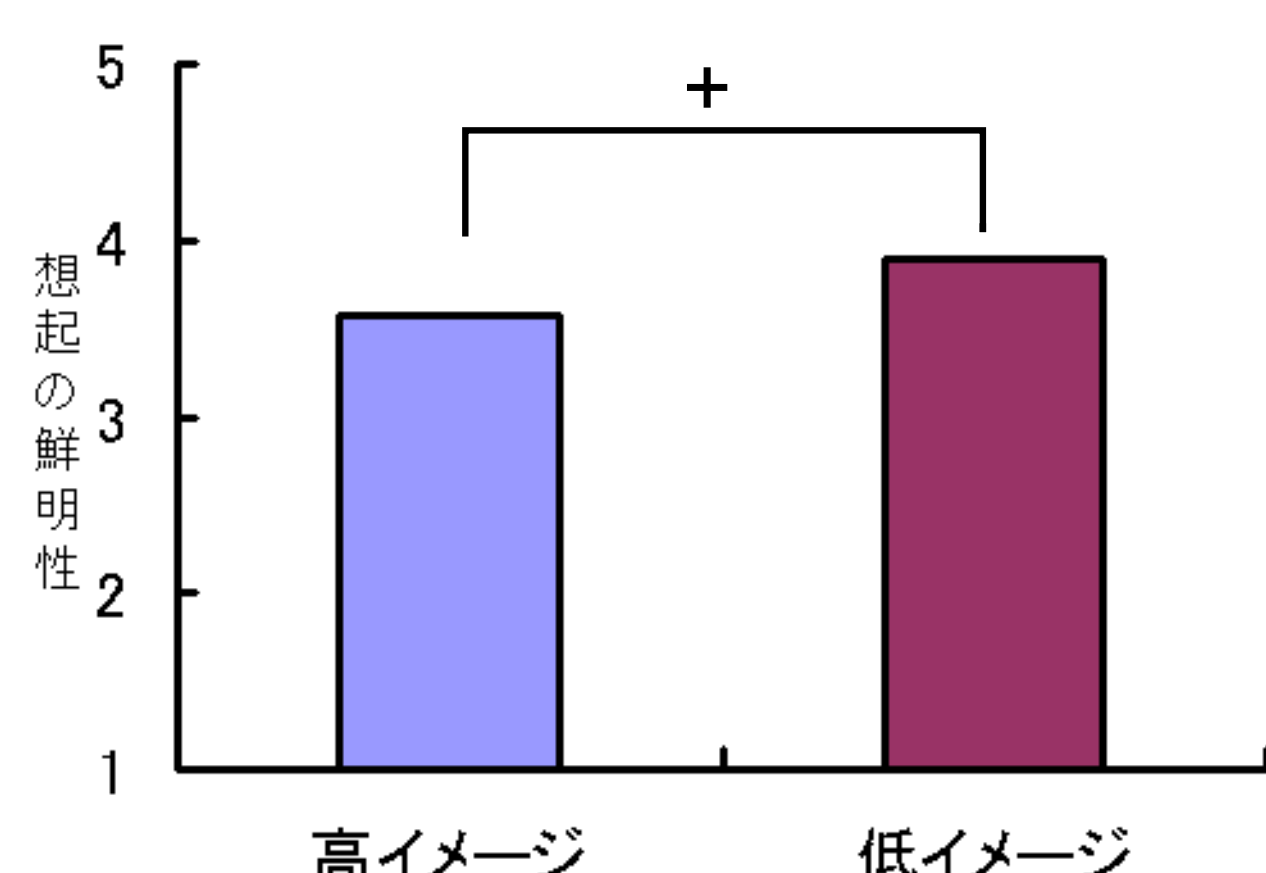
・高イメージ語を手がかりとしたときに, より過去の出来事が想起された( $t(19) = 3.78, p < .01$ )

### ○想起の視点



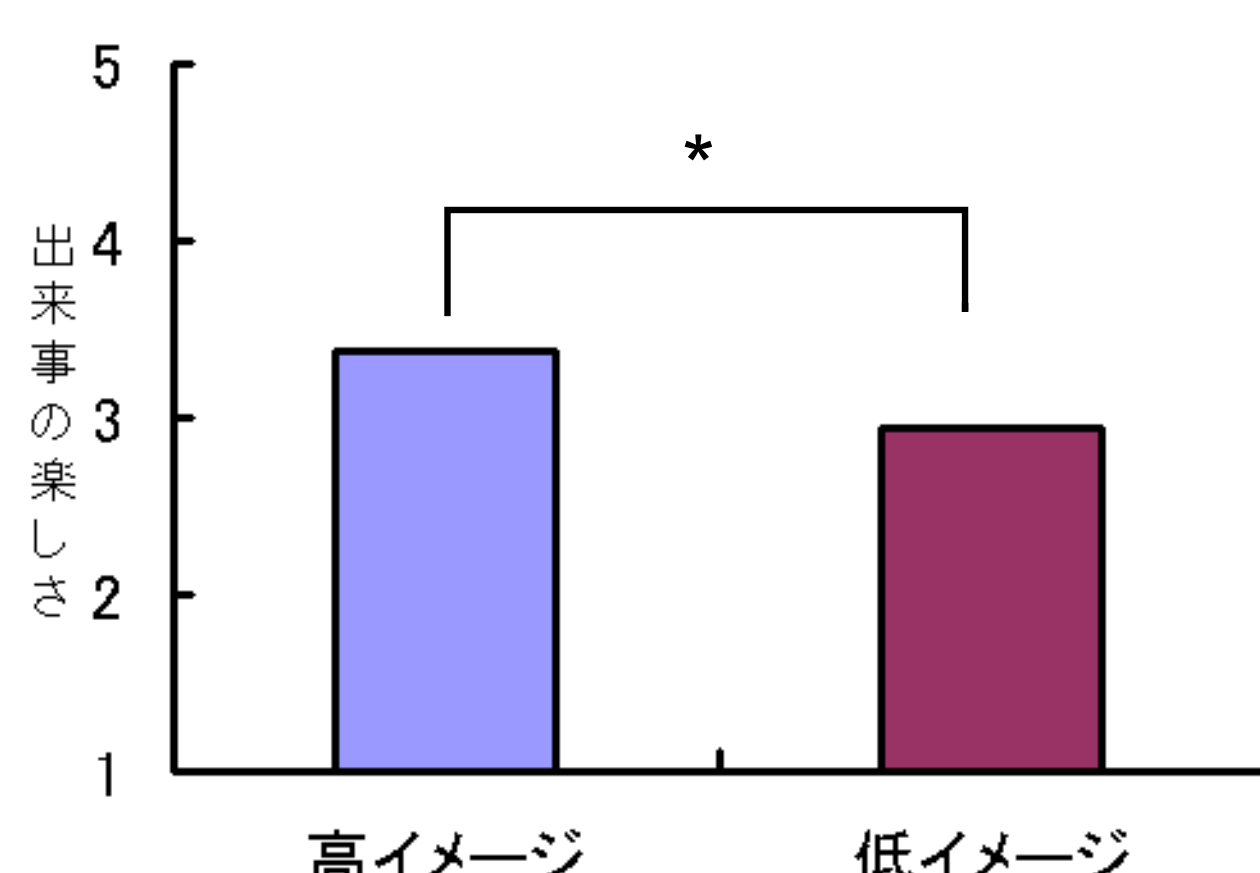
・どちらの手がかりを用いたときも, 三人称視点からの想起は40%程度( $t(19) = .25, p = .80$ )

### ○想起の鮮明性



・低イメージ語を手がかりとしたときの方が, 想起した出来事が鮮明であると評定される傾向( $t(19) = 1.89, p = .08$ )

### ○出来事の楽しさ



・高イメージ語から想起した出来事の方がより楽しい経験であったと評価された( $t(19) = 2.43, p = .03$ )

### ○結果のまとめ

・想起の手がかりのイメージ性の違いによっては, 想起の視点は異ならなかった

・イメージ性の高い語はより過去に起こった出来事の想起を促した(先行研究に一致)

・想起の鮮明性は, 高イメージ語を手がかりとした場合の方が低い傾向が見られた

→高イメージ語からは, より過去の出来事が想起されたため?

・出来事の楽しさは, イメージ性の高い語を手がかりとしたときの方が高かった

→過去の出来事を思い出しやすいことと関連?

### ○今後の課題

・想起の視点を変化させる要因の検討

視点は自己の関与がないと変化しない?

(他者の行為の想像などで効果が見られるか)

・イメージ性と過去の想起の促進との関連の検討

イメージと過去経験の間を媒介する要因は?

(出来事の楽しさなど)

### ○主要参考文献

- Libby, L. K., & Eibach, R. P. (2002). *Journal of Personality and Social Psychology*, 82, 167-179.

- Libby, L. K., Eibach, R. P., & Gilovich, T. (2005). *Journal of Personality and Social Psychology*, 88, 50-62.

- Rubin, D. C., & Schulkind, M. D. (1997). *Psychological Reports*, 81, 47-50.